



2009年10月5日(月)
株式会社ボーネルンド

～ 子どもの遊びと母親の意識調査 ～
あそびよりも勉強を重視する母親たち
現代の子どもは外遊びが大幅に減少

子どもの健全な成長に寄与することを目的に教育玩具の輸入・開発・販売を行う株式会社ボーネルンド(本社：東京都渋谷区、代表取締役社長：中西弘子)では、9月下旬に3歳から12歳のお子様を末子に持つ全国の母親400名を対象に、「子どもの遊びと母親の意識」に関するインターネット調査を実施いたしました。

昨今、体育の日に文部科学省から発表される「体力・運動能力調査報告書」でも、昔の子どもと比較した体力・運動能力の低下が叫ばれています。こうした結果を踏まえ、母親から見た子どもの遊び環境や母親の意識を浮きぼりにできるように、「子どもの平日の過ごし方」「過ごし方に関する母親の想い」「遊び時間の親子比較」といった質問をしました。

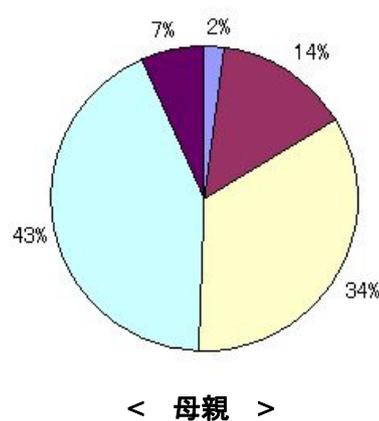
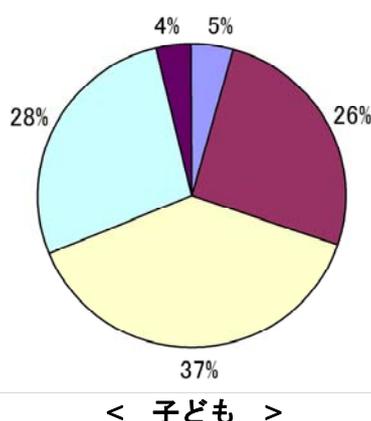
【 調査概要 】

調査方法：インターネット調査
調査地域：全国
調査対象：3歳から12歳のお子様を末子に持つ全国の母親
有効回答数：合計400サンプル
調査時期：2009年9月下旬
調査機関：インターネット調査

【 調査結果 】

～ 現代の子どもは「疲れた」と言う割合が高い?! ～

Q1. 「疲れた」とどれくらい言いますか？(お子様と母親がお子様と同年齢だった頃の比較)



■ 普通から頻繁に
■ 普通からたまに
■ 適切なときだけ※
■ ほとんどない
■ 一度もない

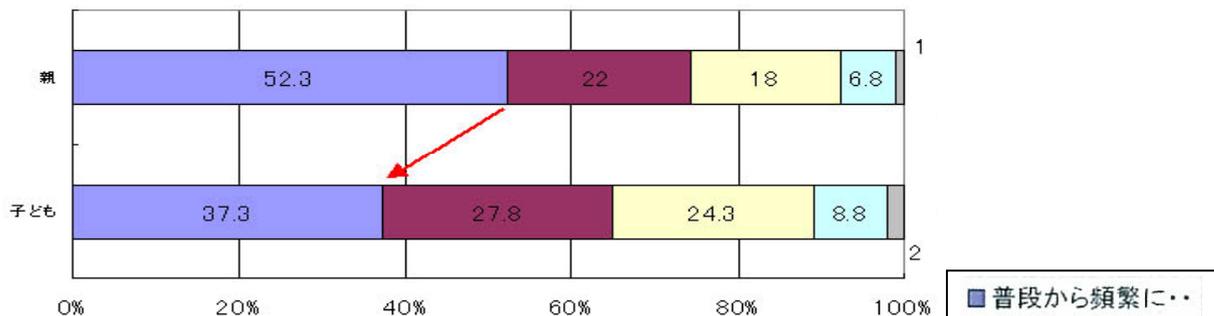
※体力や精神力をたくさん使った後など、疲れてもおかしくないとお大人が判断できる時。

「普段から頻繁に」「普段からたまに」「必要なときだけ」という、「疲れた」という事がある割合は、現代の子どもの方が18%多い結果となっています。

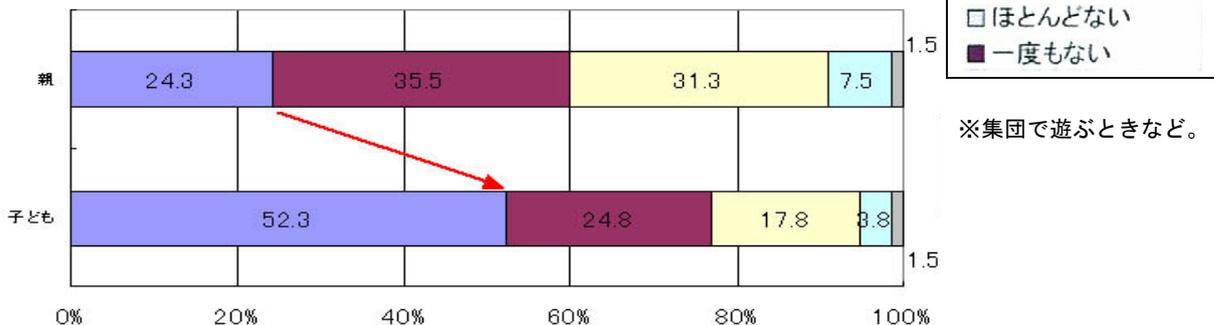
現代の子どもが「疲れた」という原因に対する母親の分析は、「外でしっかり遊んでいるから」という理由が37%ある反面、「睡眠不足だから」が21%、「体力が無いから」が26%と、現代の子どもの生活時間の乱れやライフスタイルの変化によるさらなる体力低下が垣間見られる結果となっていました。

Q2. 「外遊び」「室内遊び」をどれくらいしますか？（お子様と母親がお子様と同年齢だった頃の比較）

《外遊び》

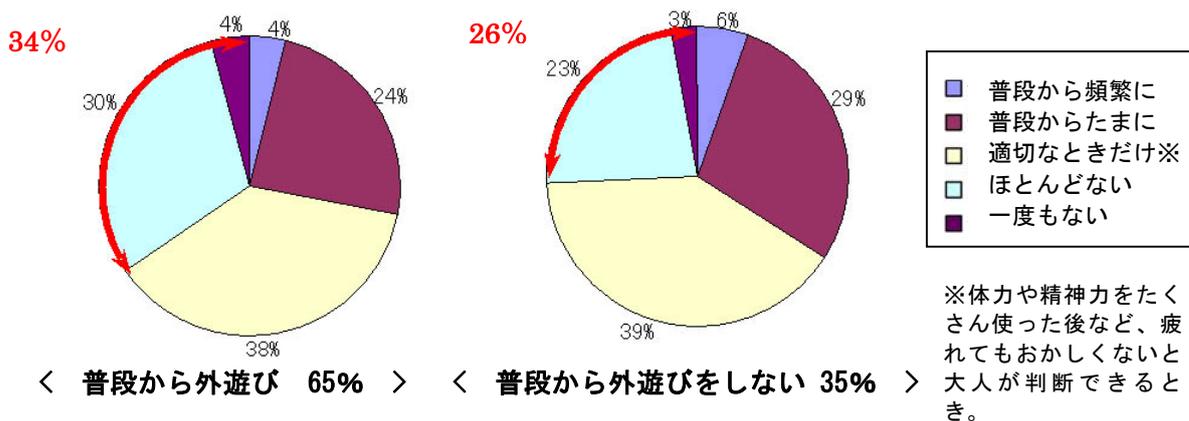


《室内遊び》



現在の子どもと母親の子ども時代では、明らかに「外遊び」と「室内遊び」の割合が変化しています。

普段から外遊びをする子どもとしない子どもを比較すると、「疲れた」と言う割合は、「ほとんどない」「一度もない」で34%と、「疲れた」と言わない子が多い傾向がうかがえます。



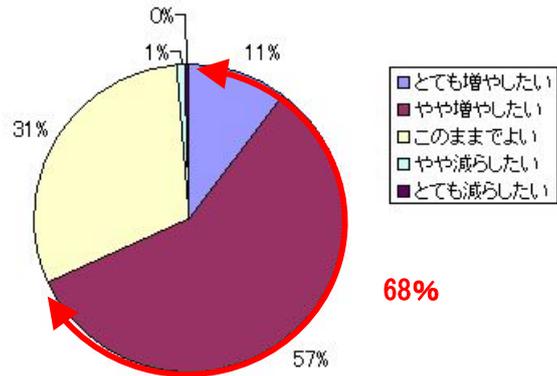
※体力や精神力をたくさん使った後など、疲れてもおかしくない大人が判断できるとき。

～ 今以上に勉強させたい?! ～

Q3. 下記の事柄に関し、お子様はどれくらい時間を過ごしていますか？（平均的な平日の過ごし方）
また、その時間をどうしたいですか？

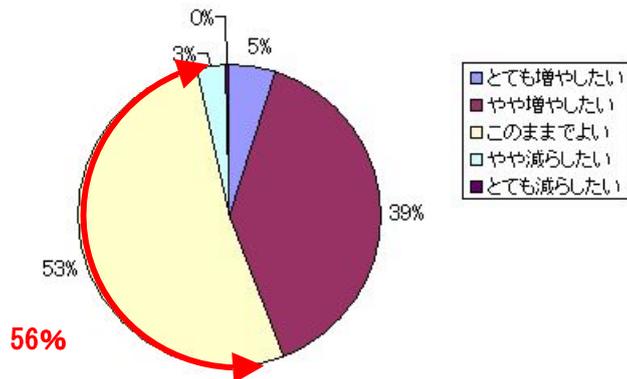
< 勉強（塾・自宅学習含） >

学齢	平均時間 (h)
未就学	0.7
小学校低学年	2.3
小学校中学年	2.6
小学校高学年	2.1



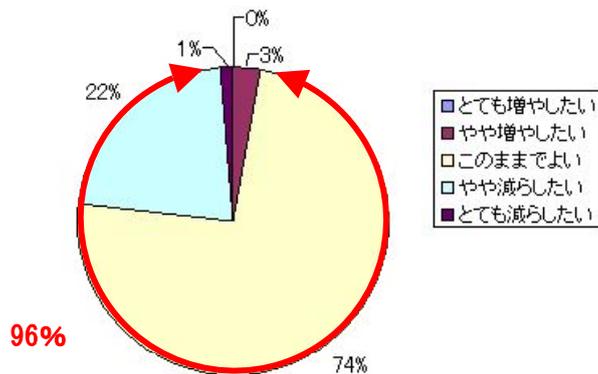
< 外遊び >

学齢	平均時間 (h)
未就学	2.0
小学校低学年	1.8
小学校中学年	1.6
小学校高学年	1.2



< 室内遊び >

学齢	平均時間 (h)
未就学	3.8
小学校低学年	2.3
小学校中学年	2.1
小学校高学年	2.3



母親は、現状の子どもの時間の使い方に満足しておらず、勉強（塾・自宅学習を含）の時間を増やして欲しいという母親が 68%、「外遊び」「室内遊び」は現状のまま、あるいは減らしたいという母親が、それぞれ 56%、96%にも上ります。

山梨大学准教授の中村和彦先生は「多くの母親が、自分の子どもが疲れていると認識しているようである。また、母親が子どもだった時と今の子どもとでは、遊びの場や遊びの内容が変わっており、外遊びから室内遊びに移行しているのも明らか。それが問題視されることなく、遊びそのものに時間を割きたいと思っている母親は少ない。子どもは本来遊びを通して育つものであるのに、遊ぶことが子どもの成長に意味のあることだという認識がないのではないか。国際的に見てあそびに価値を見出していないのは日本の親だけであり、この状況は変えていかなくてはならないと思う。」とコメントしています。

【山梨大学准教授 中村和彦 プロフィール】

1960年山梨県生まれ。

山梨大学人間科学部准教授。専門：発育発達学、運動発達学、健康教育学

他に、文部科学省中央教育審議会スポーツ・青少年分科会スポーツ振興に関する特別委員会委員、日本体育協会ジュニアスポーツ指導員部会部会長、日本オリンピック委員会(JOC)ゴールドプラン専門委員会委員、NHK教育テレビ番組「からだであそぼ」監修など。「子どものからだが危ない！」(日本標準)など著書多数。

【ボーネルンドについて】

ボーネルンドは、「あそび」の道具と環境を提供することを通して子どもの健全な成長に寄与することを目的に、1981年に設立。幼稚園や保育園、公園などに高品質な大型遊具や教育道具の提供を含めたあそび環境の開発を行っており、現在までに手掛けた実績は国内約3万ヵ所まで拡大しています。また同時に一般家庭向けにも、子どもの成長に必要な生活道具としての「あそび道具」を提案、全国80ヵ所で直営小売店舗を運営しています。更に、親子一緒に全身を使って遊べる屋内遊戯施設「KID-O-KID」を全国9ヶ所に展開しています。

報道関係の方のお問い合わせ先

株式会社ボーネルンド 広報

担当：村上

TEL：03-5785-0860

E-mail：y-murakami@bornelund.co.jp

株式会社プラップジャパン

担当：内藤、伊藤、山口

TEL：03-3486-6868

E-mail：bornelund@prap.co.jp